

かみまち 加美町バイオマス産業都市構想の概要

宮城県加美町、人口約2.4万人、面積約4.6万ha

構想の概要

町内に豊富に存在するバイオマスを最大限に利活用し、産業や生業を生み出し、災害に強く安心安全な地域をつくることで、町の基本理念である「共生」、「協働」、「自治」に基づく「善意と資源とお金が循環する人と自然に優しいまち」を目指す

1. 将来像

- ① 「共生」、「協働」、「自治」に基づき、「善意と資源とお金が循環する人と自然に優しいまち」
- ② 人口減少や少子高齢化、産業の低迷などの課題に対応し真の豊かさと活力を築く環境を多面的に創出
- ⑤ エネルギー・食料・木材などの地産地消を進め地域内における雇用やお金の循環を生み出す「里山経済の確立」

2. 事業化プロジェクト

- ① バイオガス化プロジェクト・生ごみ、家畜ふん尿、合併浄化槽汚泥から電気・熱・液肥を製造[民間]
- ② 未利用木質資源の燃料化プロジェクト・林地残材、広葉樹、防風林、果樹剪定枝からチップ、薪、ペレットを製造[民間]
- ③ 公共温泉施設における薪ボイラー導入プロジェクト・薪から熱を製造[町]

3. 目標(10年後)

- ① 廃棄物系バイオマス
乳牛ふん尿:100%(100%)、食品廃棄物(一般):80%(0%)
し尿・浄化槽汚泥:100%(100%)
- ② 未利用バイオマス
間伐材:15%(0%)、広葉樹:18%(0%)
※()内は現在の利用率

4. 地域波及効果

- ① 経済波及効果:39.3億円(宮城県産業連関分析シートより)
- ② 雇用創出効果:235人
- ③ バイオマスエネルギーによる化石燃料代替量及び費用
・電気:370Mwh/年、熱:16,266GJ/年、費用:30百万円/年
- ④ 温室効果ガス排出削減量:2,531t-CO₂/年
- ⑤ 廃棄物及び合併浄化槽汚泥の削減量:4,928t
- ⑥ 災害時の燃料供給量:1,350t/年(木質燃料生産量)
- ⑦ 未利用木質バイオマスの利用量、販売量等
・利用量:1,350t/年、販売量:23,200千円/年

5. 実施体制

・町が主体となり民間事業者、外部有識者などを構成員とする「評価委員会(案)」を設置し、構想の評価・アドバイス等を得る

6. その他

第二次加美町総合計画(H27-36)、加美町過疎地域自立促進計画(H28-32)、加美町地域エネルギー活用調査・企業事業報告書(H24)、加美町水田農業ビジョン(毎年度)、加美町まち・ひと・しごと創生総合戦略(H27-31)、加美町環境基本計画(H19-28)

加美町におけるバイオマス産業都市構想 全体図

